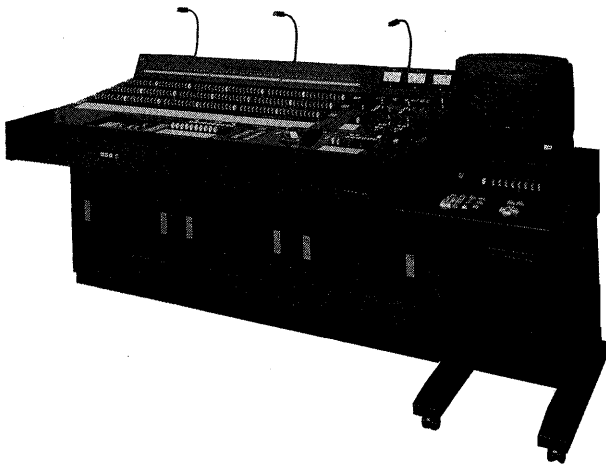


操作マニュアル

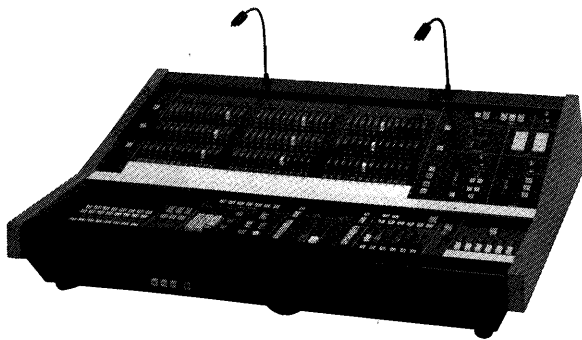
# PRETYNA

## プリティナA型



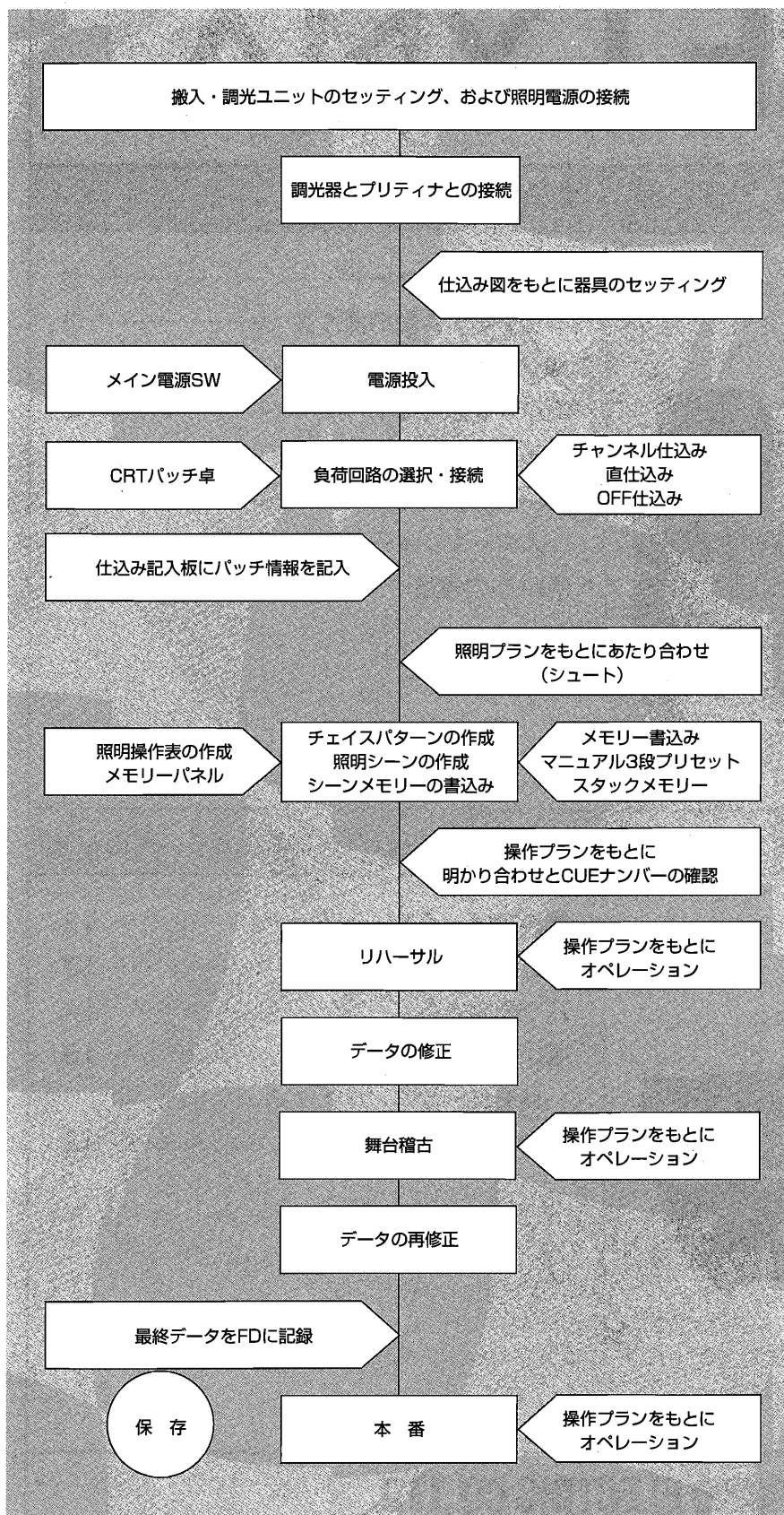
操作フローチャート.....	2
プリティナA型の操作面.....	3
パッチをする/CRTパッチ卓の操作.....	4
明かりをつくるI.....	6
メモリー操作	
明かりをつくるII.....	8
スタックフェーダとチェイス	
明かりの再生.....	10

## プリティナB型



操作フローチャート.....	12
プリティナB型の操作面.....	13
パッチをする.....	14
明かりをつくる.....	16
メモリー操作/チェイス	
明かりの再生.....	18

# プリティナA型フローチャート



## プリティナ調光操作卓A型の概要

### ●CRTパッチ卓

CRT画面との対話形式で、負荷回路と調光卓のフェーダ回路との接続をおこないます。

- ①仕込み操作モード  
負荷回路と調光回路とを選択・接続します。
- ②プレビューモード  
仕込み状態の確認をします。
- ③編集操作モード  
仕込み状態の変更をおこないます。
- ④クリアー操作モード  
パッチ卓のすべての接続状態をクリアー(解除)します。
- ⑤レベル表示モード  
実行明かり、CF-A、CF-Bについてのレベルを表示します。
- ⑥レベルプリントアウトモード  
実行明かり、CF-A、CF-Bについてのレベルをプリントアウトします。(本機能はオプション機能です。)
- ⑦バックアップ仕込み操作モード  
なんらかの事情でプリティナで照明を操作できなかった場合、CRTパッチ卓のフェーダで明かりの再生をおこないます。

### ●プリティナA型

- ①3段プリセットフェーダ  
従来のマニュアル3段プリセットフェーダとして使用できます。  
また、メモリーの書込みフェーダとしても使用します。
- ②メモリーパネル  
最大500シーンのレベルデータを記憶することができます。
- ③スタックメモリー/スタックフェーダ  
10本×10ページの100シーンの簡易メモリーとして使用できます。  
(40ch 6本×10ページ 60シーン)
- ④チェイスパネル  
スタックメモリーをページごとに順次点滅するチェイス効果を実行できます。
- ⑤フラッシュスイッチ  
フェーダごとにフラッシュ効果(タッチ)をおこないます。
- ⑥P・F・G機構  
ワンタッチでフェーダ群をG1～6のグループ、フリーのフェーダに接続します。
- ⑦客席調光装置  
客席の調光操作を手動/自動でおこないます。
- ⑧3.5インチフロッピーディスクドライブ(FDD)  
プリティナのパッチデータ、シーンデータ、スタックメモリー、チェイスデータ、PFGデータを3.5インチのフロッピーディスクに保存、または保存データを読み込みます。(COMOS対応)

# プリティナ A型の操作面

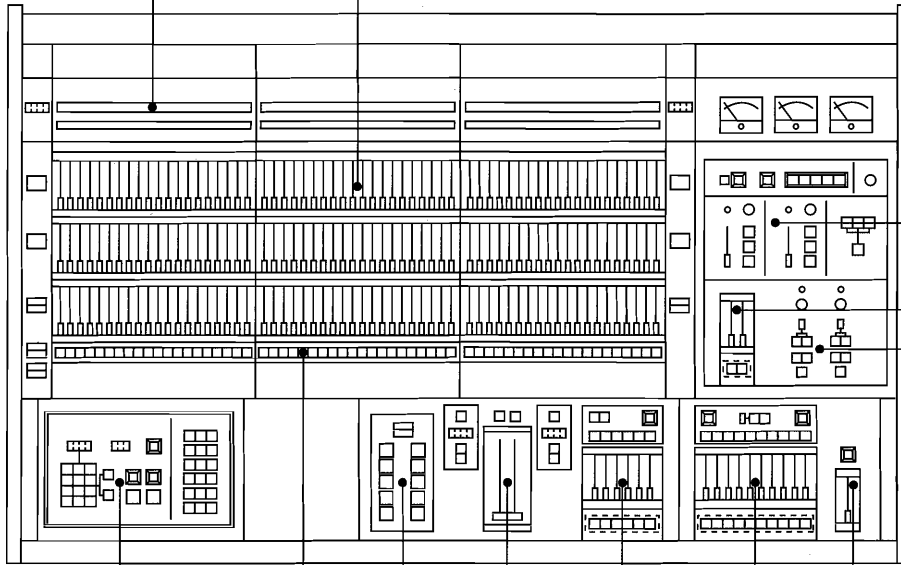
プリセットフェーダ

調光レベル/PFG表示

チェイスパネル

チェイスマスターフェーダ

客席自動調光パネル



メモリーパネル

フラッシュスイッチ

段切替パネル

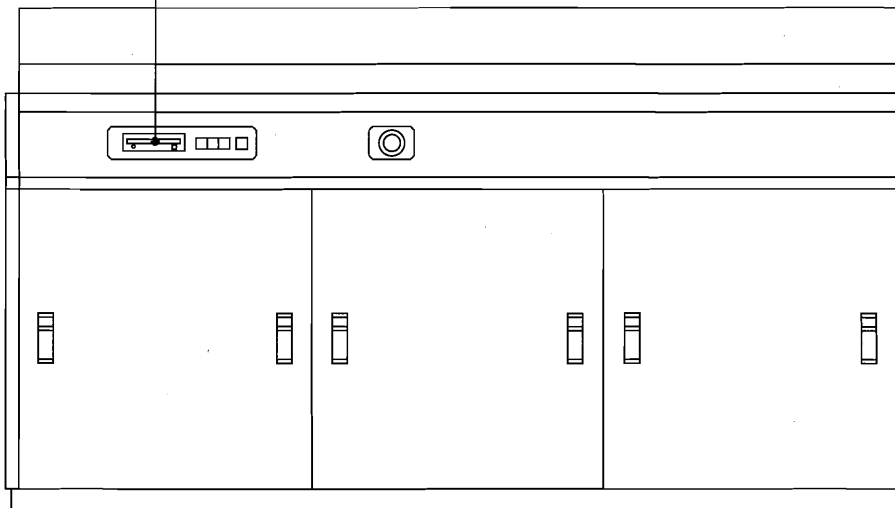
マスターフェーダ

スタックフェーダパネル

グループフェーダパネル

クロスフェーダ

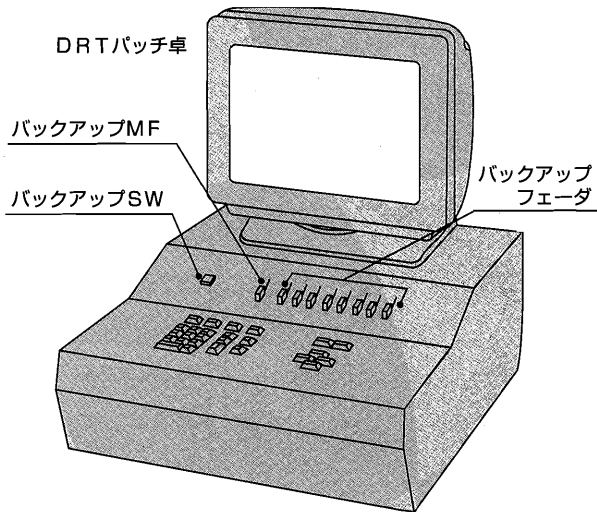
フロッピーディスクパネル



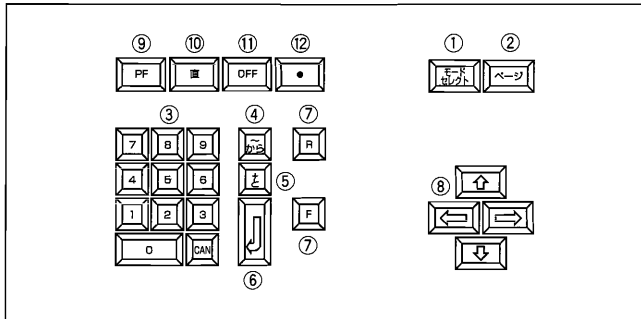
# パッチをする / CRTパッチ卓の機能

パッチとは負荷回路(コンセント)を選択し、調光回路(フェーダ)に接続することをいいますが、プリティナで照明(明かり)を操作するためには、まずパッチ(選択・接続)をおこないます。

## CRTパッチ卓 CRT操作パネル各部の名称と働き



DRT操作パネル

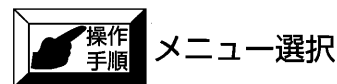


名 称	機 能
① モードセレクトキー	CRT画面をモードセレクト(入力待ち)状態にもどすキー
② ページ切替えキー	CRT画面を切替えるキー 押すごとにプラス1になる
③ テンキー	0~9 メニュー選択、フェーダNo.のセットに使用する
	CAN メニュー選択、フェーダNo.のキャンセルに使用する
④ ~ (から) キー	負荷回路、フェーダNo.の範囲指定に使用する
⑤ + (と) キー	負荷回路コモン (バラ) 指定に使用する
⑥ ↵ (リターン) キー	操作の確定に押すキー
⑦ F/Rキー	フェーダNo.またはシーンNo.をプラス1またはマイナス1させる
⑧ カーソル (矢印) キー	CRT画面のカーソルを移動するときに使用する
⑨ PFキー	オプションキー
⑩ 直キー	直仕込みのON-OFFをセットする
⑪ OFFキー	OFF仕込みのON-OFFをセットする
⑫ ・キー	オプションキー

## 1. CRTパッチ卓の操作モードの決定

CRTパッチ卓に電源を投入すると、モードセレクト(入力待ち)の状態になります。次に、メニューの中から作業を選択します。

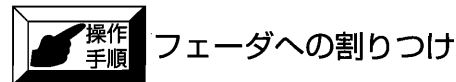
負荷回路を調光回路(フェーダ)へ割つける場合は、メニュー1(仕込みモード)を選択します。



- ①電源SWをONにします。
- ② **テンキー** (数字キー)の1を押し、仕込みモードを選択します。
- ③ **↵** (リターン) キーを入力して選択を確定します。

## 2. 調光仕込み

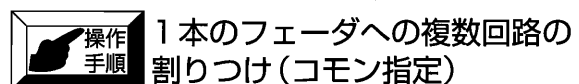
CRT画面が仕込みモードに替わります。次に、チャンネル仕込み(負荷回路をフェーダ回路に割りつける)場合には、以下の操作をおこないます。



- ① **カーソル** (矢印) キーを押し、カーソルを移動させ、負荷回路の選択をします。
- ②次に **テンキー** (数字キー)でセットしたいフェーダNo.を指定します。
- ③ **↵** (リターン) キーを押し、操作を確定します。

● **↵** (リターン) キーを押すことによって、仕込みが確定し、DRTモニターの仕込み表示欄にフェーダNo.が表示されます。

●サスペンション(Sus)で地明かりをつくる時など、複数の負荷回路を同一フェーダに割りつけること(コモン指定)も可能です。



- ① **カーソル** (矢印) キーを押し、カーソルを移動させ、負荷回路を選択します。

- ② **+** (と) キー、または **←** (から) キーを押します。
- ③ **カーソル** (矢印) キーを押し、カーソルを移動させ、負荷回路を選択します。

- **+** (と) キーを押した場合、カーソルを移動させ、**↵** (リターン) キーを押した負荷回路と最初にカーソルのあった負荷回路がコモン指定されます。
- **←** (から) キーを押した場合、カーソルがトレース (なぞった) した回路がすべてコモン指定されます。

- ④次に**テンキー** (数字キー) でセットしたいフェーダ No. を指定します。
- ⑤ **↵** (リターン) キーを押し、操作を確定します。

- フェーダ No. が連続する場合、**F** キーを入力するごとにフェーダ No. がプラス 1 され、**R** キーを入力するたびにフェーダ No. がマイナス 1 されます。
- 入力したフェーダ No. のキャンセルをおこなう場合には、**CAN** (キャンセル) キーを入力し、フェーダ No. 無しの状態にして、**↵** (リターン) キーを入力すれば仕込み表示欄のフェーダ No. をクリアできます。

### 3. 直仕込み

直仕込みは、負荷回路のフェーダ No. の指定の有無に関わらず、指定した負荷回路を強制的に 100% (LINE = 直) 点灯します。



#### 直仕込み

- ① **カーソル** (矢印) キーを押し、直仕込みをおこなう負荷回路を選択します。
- ② **直** キーを押し、入力を確定します。
- **直** キーを入力すると CRT 画面の仕込み表示欄が「赤」に変化し、再度、**直** キーを入力すると直指定は解除されます。
- 直仕込みモードでも **+** (と)、**←** (から) キーを使用した複数の回路のコモン指定が可能です。



#### 直仕込みコモン指定

- ① **カーソル** (矢印) キーを押し、カーソルを移動させ、負荷回路を選択します。

- ② **+** (と) キー、または **←** (から) キーを押します。
- ③ **カーソル** (矢印) キーを押し、カーソルを移動させ、負荷回路を選択します。
- ④ **直** キーを押し、入力を確定します。

### 4. OFF 仕込み

OFF 仕込みは、指定した負荷回路の点灯を禁止します。



#### OFF 仕込み

- ① **カーソル** (矢印) キーを押し、OFF 仕込みをおこなう負荷回路を選択します。
- ② **OFF** キーを押し、入力を確定します。

- **OFF** キーを入力すると、CRT 画面の仕込み表示欄が「緑」に変化し、再度、**OFF** キーを入力すると OFF 指定は解除されます。
- OFF 仕込みモードでも **+** (と) キー、**←** (から) キーを使用した複数の回路のコモン指定が可能です。



#### OFF 仕込みコモン指定

- ① **カーソル** (矢印) キーを押し、カーソルを移動させ、OFF 仕込みをおこなう負荷回路を選択します。
- ② **+** (と) キー、または **←** (から) キーを押します。
- ③ **カーソル** (矢印) キーを押し、カーソル移動させ、負荷回路を選択します。
- ④ **OFF** キーを押し、入力を確定します。

### 5. バックアップによるパッチ操作

バックアップ SW を ON することにより、バックアップのパッチ操作ができ、CRT パッチ卓のバックアップフェーダで調光操作がおこなえます。

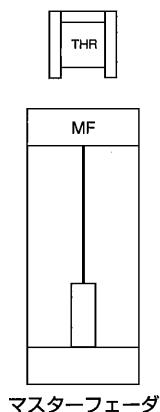
パッチ操作は、1 ~ 4 と同様の操作でおこないます。

# 明かりをつくる I メモリー操作 <メモリーパネルを使う>

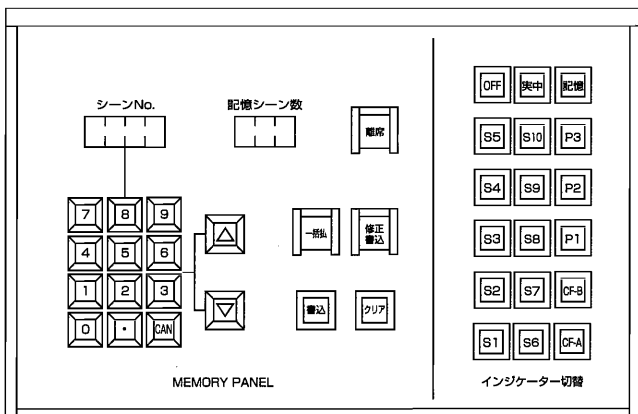
パッチデータができあがりました。次に「明かり」を出してみましょう。

明かりのつくり方には、3段のプリセットフェーダを使用したマニュアル（手動）操作とメモリー機能を使用した操作があります。

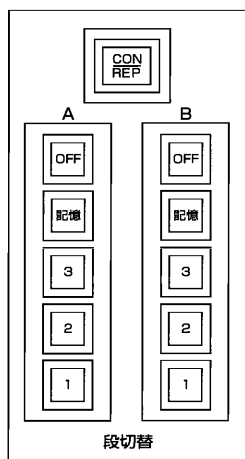
ここでは、メモリーパネルの操作手順を中心にメモリー操作を紹介します。



マスターフェーダ



メモリーパネル



段切替パネル

## 1. 明かり(照明)をつくる

### 操作手順 シーンデータの作成

- ① マスターフェーダを100%にセットするか、またはマスターフェーダ上の**THR**（マスタースルー）SWをONにします。
  - \* マスタースルーSWをONにすると、マスターフェーダを100%に上げた時と同じ状態になります。
- ② メモリーパネルのインジケータ切替えSWの**実行中**（実行中）を押します。
- ③ 段切替パネルで、CF（クロスフェーダ）の0%側の段切替SWを選び、**1 2 3**のいずれかのSWを押し、プリセット段を選択します。
  - \* 選択した段をクロス転換で実行段に変えると、実行段のパイロット（以下、PL）が「赤」に点灯します。
- ④ 実行段でシーンデータを作成します。
  - \* 卓の正面のインジケータ表示窓に実行明かりのデータがデジタルで表示されます。0%のときには—で、100%のときにはFLで表示されます。
- ⑤ メモリーパネルの**テンキー**（数字キー）でシーンNo.をセットします。
  - \* セットできるシーンNo.は0～999.9までの0.1刻みで、最大500シーンをセットすることが可能です。
- ⑥ メモリーパネルの**書込**（書込み）SWが「緑」に点灯していることを確認してからSWを押します。
  - \* 指定したシーンNo.が既に記憶されている場合には、この**書込**SWの隣の**クリア**（クリア）SWが点灯し、書込み操作はできなくなります。シーンNo.を未記憶のものに変更するか、シーンの消去をおこなってください。

## 2. シーンデータを消す(クリアー操作)

不用になったシーンデータを消去します。



## シーンデータの消去(クリア)操作

- ①メモリーパネルの**テンキー**(数字キー)で、消去するシーンNo.をセットします。
- ②メモリーパネルの**クリア**(クリア)SWを押します。

## 3. シーンデータのコピー

記憶済みのシーンデータを他の異なるシーンに書き込みすることをシーンデータのコピーといいます。

<例> 101シーン(記憶済み)のデータを201シーン(未記憶)に書き込みます。



## シーンデータのコピー

- ①メモリーパネルのシーンNo.表示窓にシーンNo.が表示されているときは**CAN**キーを押し、シーンNo.表示をクリアします。
- ②メモリーパネルの**テンキー**(数字キー)を**10**の順に押します。
- ③メモリーパネルのインジケータ切替えSWの**記憶**SWを押します。  
\* 卓の正面のインジケータ表示窓に指定したシーン(この場合101シーン)のデータがデジタルで表示されます。
- ④メモリーパネルの**CAN**キーを押し、シーンNo.セット表示窓の表示をクリアします。
- ⑤メモリーパネルの**テンキー**(数字キー)を**20**の順に押します。
- ⑥メモリーパネルの**書込**SWが「緑」に点灯していることを確認してから、**書込**SWを押します。  
\* 101シーンのデータが201シーンとして書き込まれます。

## 4. 記憶シーンデータの保存

せっかく記憶させたシーンデータを誤操作で消去してしまうことがあります。そのようなことを無くすためにも、作成したシーンデータを3.5インチフロッピーディスクに保存することをお勧めします。

3.5インチフロッピーディスク(以下、FD)は2HDタイプのものでご用意ください。

\* 記録するディスクが新品の場合には、ディスクのフォーマット(FDにプリティナのデータを書き込むようにすること)が必要です。



## ディスクフォーマット

- ①フロッピーディスクをフロッピーディスクパネルに挿入します。
- ②**RES**(リセット)SWを押します。
- ③**COMOS/通常**SWを押します。
- ④正常に終了した場合にはブザーが長く1回(ブー)と鳴ります。エラー(異常)が生じた場合にはブザーが短く3回(ピー・ピー・ピー)と鳴ります。

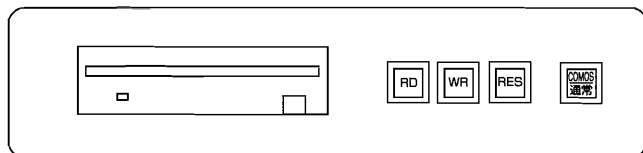
以上の操作でフロッピーのフォーマットが終了しました。次に、作成したデータを保存します。



## データの保存/ライト(書き込み)操作

- ①フロッピーディスクをフロッピーディスクパネルに挿入します。
- ②**WR**(ライト/書き込み)SWを押します。  
\*すでにディスク内にデータがある場合にはブザーが鳴ります。  
操作を中止する場合には、点滅しているSWを押しすることにより、操作がキャンセルされます。
- ③**COMOS/通常**SWを押します。  
\*書き込み操作実行中は卓の操作ができなくなります。
- ④正常に終了した場合にはブザーが長く1回(ブー)と鳴ります。エラー(異常)が生じた場合にはブザーが短く3回(ピー・ピー・ピー)と鳴ります。

- プリティナのメインメモリーは卓の中のRAMメモリーによって保持されていますが、なんらかの事情(電源・電圧の異常や、誤操作によるメモリー・オールクリア操作など)でメインメモリーが消失することがありますので、作成したシーンデータはフロッピーディスクに保存することをお勧めします。



フロッピーディスクパネル

# 明かりをつくるⅡ スタックメモリー〈スタックフェーダとチェイス〉

ブリティナにはメインメモリーのほかにスタックメモリーという機能があります。

このスタックメモリーは10本のスタックフェーダに明かりのデータを記憶させる機能です。この機能を使うことによって、さらにグレードの高い照明操作が可能になります。

## 1. スタックフェーダについて

スタック (STACK) とは書架とか、本棚といった意味で、照明のシーンをしまっておくといったような意味です。

このスタックフェーダは、それぞれのフェーダに1シーンの照明シーンを記憶させ、フェーダを操作することによって再生することができます。

また、スタックメモリーは0～9の10ページを持ち、最大100シーンまでのシーンを記憶することができます。

## スタックメモリーのイメージ

図書館 (スタックメモリー)											
0ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	書架0
1ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	書架1
2ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	書架2
3ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	書架3
4ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	書架4
5ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	書架5
6ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	書架6
7ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	書架7
8ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	書架8
9ページ	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	書架9

それぞれの書架には10冊ずつの本が収まっている

- メインメモリーは書庫 (図書館) を表わし、0～9に分類された書架がスタックメモリーのページ (0～9) を表わします。それぞれのスタックメモリーのページ (書架) の中に10冊の本 (スタックフェーダ) があり、必要な書架 (ページ) を引き出して本 (明かり) を読書 (再生) します。

## 2. スタックフェーダの操作

スタックメモリーに照明データを書込みましょう。

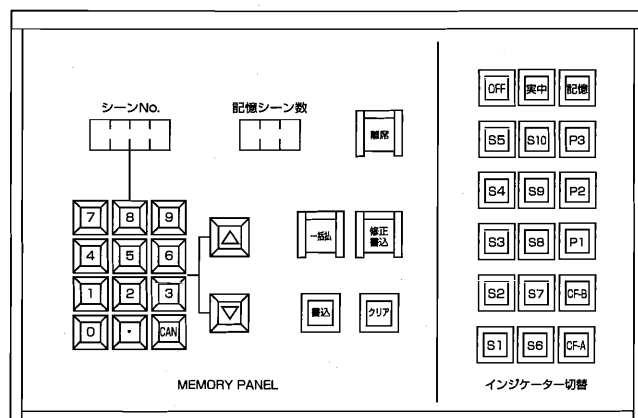


### スタックメモリーの書込み

- ①メモリーパネルのインジケータ切替SWで書込みレベルを選択します。

インジケータ切替SWは、**OFF**SW以外、すべて有効です。

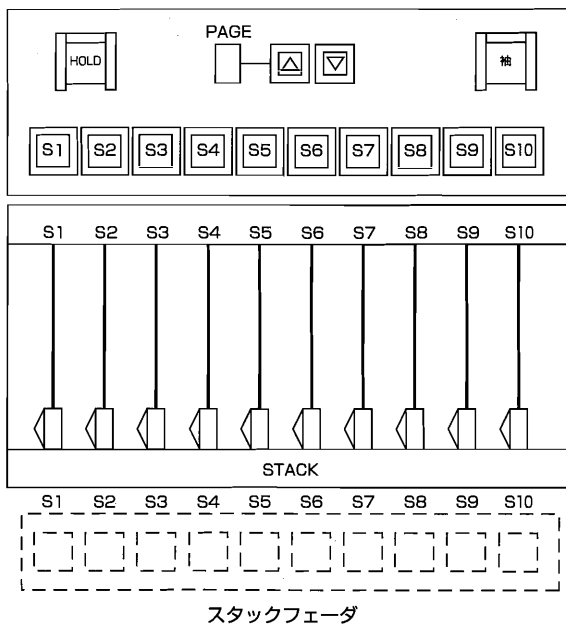
- 実中** SW = 現在実行されている明かりが有効
- 記憶** SW = シーンNo.表示窓に表示されている記憶済みシーンが有効
- P1** SW = プリセットの1段目のフェーダデータが有効
- P2** SW = プリセットの2段目のフェーダデータが有効
- P3** SW = プリセットの3段目のフェーダデータが有効
- CF A** SW = CF (クロスフェーダ) のAに乗っているデータが有効
- CF B** SW = CF (クロスフェーダ) のBに乗っているデータが有効
- S1** ~ **S10** SW = 現在表示されているスタックメモリーのページの指定したスタックフェーダが有効



メモリーパネル



- ②スタックフェーダパネルの**PAGE** (ページ選択) SWを押し、書込み操作をおこなうページ (0~9) を選択する。**▲**SWを押しごとにページNo.がプラス1され、**▼**SWを押しごとにページNo.がマイナス1されます。
- ③スタックフェーダの上の**S1**~**S10** (書込/クリヤー) SWを押します。  
インジケータ表示窓に表示されたレベルがスタックメモリーに書込まれ、自照LEDが点灯します。自照LEDが点灯している場合には、概にデータが書込まれています。**S1**~**S10** (書込/クリヤー) SWを押し、自照LEDを消灯することでデータを消去(クリヤー)できます。  
再度**S1**~**S10** (書込/クリヤー) SWを押し、自照LEDが点灯すれば、インジケータ表示窓に表示されたレベルデータが書込まれます。

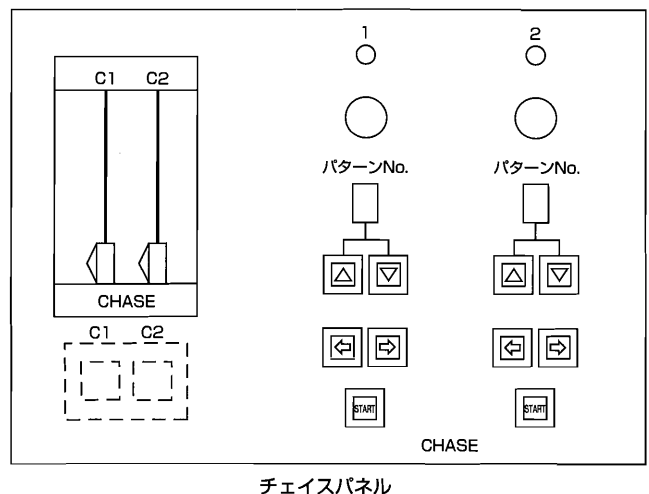


### 3. チェイスの操作

チェイス機能はスタックメモリーに書込まれた照明データを繰り返し再生する機能で、電飾効果による華やかなライティングを可能にします。  
チェイス機能にはチェイス1とチェイス2の2系統が用意されています。



- ①チェイス操作パネルのパターン選択SWで、チェイスのパターン(スタックメモリーのページ)を選択します。  
**▲**SWを押しごとにパターンNo.がプラス1され、**▼**SWを押しごとにパターンNo.がマイナス1されます。選択されたスタックのページNo.はパターンNo.表示器に表示されます。
- ②チェイス動作は**START** SWを押すとスタートし、動作表示LEDが点灯します。  
チェイス動作が実行されている時に、再び**START** SWを押すとチェイス動作はストップし、動作表示LEDが消灯します。
- ③チェイスの流れの方向は、流れ方向指定SW **◀▶**で指定します。
- ④チェイスの1ステップの動作時間は、パターンNo.表示器の上の動作時間調整VRで調整できます。
- ⑤2本のチェイスフェーダは、それぞれチェイス1、およびチェイス2の明かりを同時に明転、暗転させることができます。
- ⑥チェイスフラッシュSWは、チェイスフェーダに関係なく強制的に明転させることができます。

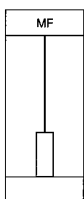


# 明かりの再生 〈読出し操作〉

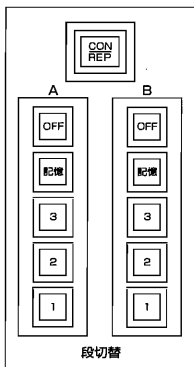
メモリー（記憶）シーンができました。次は記憶したシーンデータを再生します。

再生方法には、「記憶のみの再生」と「マニュアルのみの再生」と「記憶とマニュアルを併用した再生」との3種類があります。

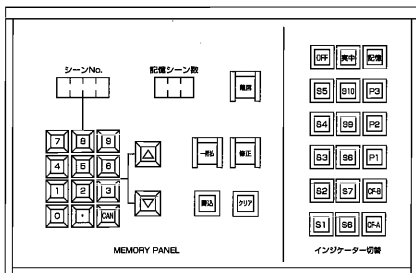
ここでは、「記憶のみの再生」と「記憶とマニュアルを併用した再生」を紹介します。



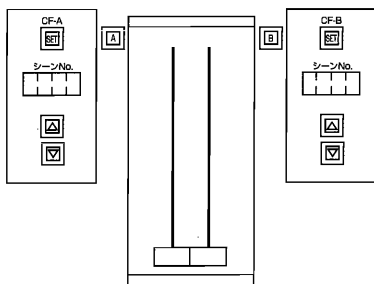
マスターフェーダ



段切替パネル



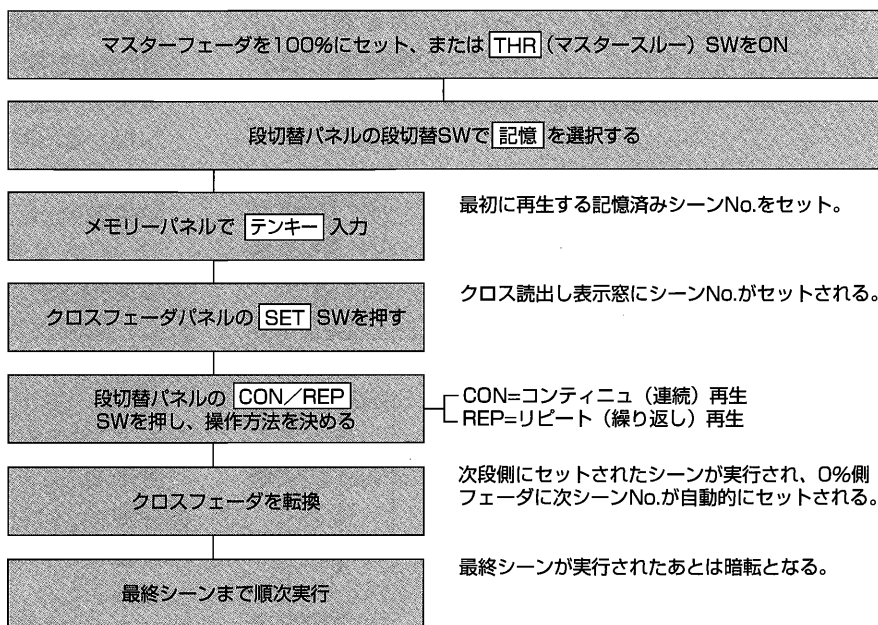
メモリーパネル



クロスフェーダパネル

## 1. メモリー（記憶）再生

記憶したシーンデータをクロスフェーダに読出して再生します。



## 2. 記憶とマニュアルを併用した再生

ここでは、記憶済みシーンとマニュアル操作の併用再生の手順を紹介します。

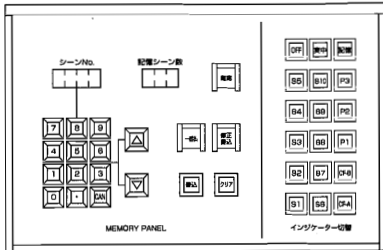
実際の操作例にそって操作方法を紹介していきます。

### ■操作例

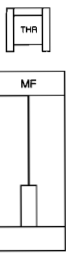
- ①まず、マニュアルの1段目をCF-Aで再生します。
- ②次に、マニュアルの2段目をCF-Bで再生します。
- ③記憶シーンの101シーンをCF-Aで再生します。
- ④記憶シーンの102シーンをCF-Bで再生します。
- ⑤マニュアルの3段目をCF-Aで再生します。
- ⑥照明シーンを暗転（暗闇）します。

次に、操作例にそって操作方法を紹介していきます。

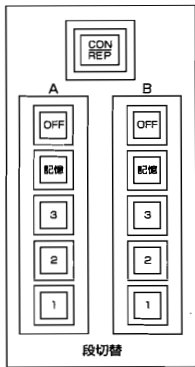
**操作手順**



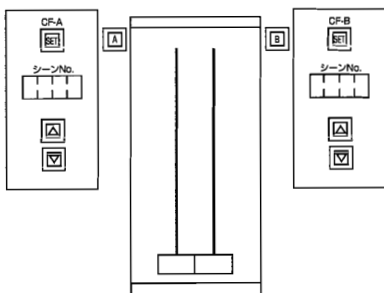
メモリーパネル



マスターフェーダ



段切替パネル



クロスフェーダパネル

プリセットフェーダ1~3段にそれぞれのレベルデータをセットします。

メモリーパネルのシーンNo.セットをテンキーにより、**101**とセットします。

マスターフェーダを100%にセット、または**THR**(マスタースルー)SWをON

クロスフェーダのA側を0%側に倒し、段切替SW **1** を押します。  
CF-Bの段切替SWの **OFF** を押します。

① クロスフェーダを操作します。 1段目のシーンが点灯し、CF-A側のPL (1) が「緑」から「赤」に変わり、CF-B (OFF) 側のPL が「赤」から「緑」に変わり、スタン・バイ状態になります。

クロスフェーダBの段切替SWを **2** に押し変えます。

② クロスフェーダを操作します。 2段目のシーンが点灯し、CF-B側のPL (2) が「緑」から「赤」に変わり、CF-A (1) のPLが「赤」から「緑」に変わり、スタン・バイ状態になります。

クロスフェーダAの段切替SWを **記憶** に押し変えます。

クロスフェーダA側の **SET** (記憶) SWを押します。

段切替パネルの **CON/REP** SWを押し、CONを選択します。

③ クロスフェーダを操作します。 記憶の101シーンが点灯し、CF-A側のPLが「緑」から「赤」に変わり、CF-B側のPL (2) が「赤」から「緑」に変わり、スタン・バイ状態になります。

クロスフェーダBの段切替SWを **記憶** に押し変えます。

自動的にシーンNo.表示窓に102シーンがセットされます。

④ クロスフェーダを操作します。 記憶の102シーンが点灯し、CF-B側の (102) PLが「緑」から「赤」に変わり、CF-A側のPL (101) が「赤」から「緑」に変わり、スタン・バイ状態になります。

クロスフェーダAの段切替SWを **3** に押し変えます。

⑤ クロスフェーダを操作します。 プリセットの3が点灯し、CF-A側の (3) PLが「緑」から「赤」に変わり、CF-A側のPL (102) が「赤」から「緑」に変わり、スタン・バイ状態になります。

クロスフェーダBの段切替SWを **OFF** に押し変えます。

マスターフェーダを0%に押し下げます。  
(マスタースルーSWがONの状態では操作不可)

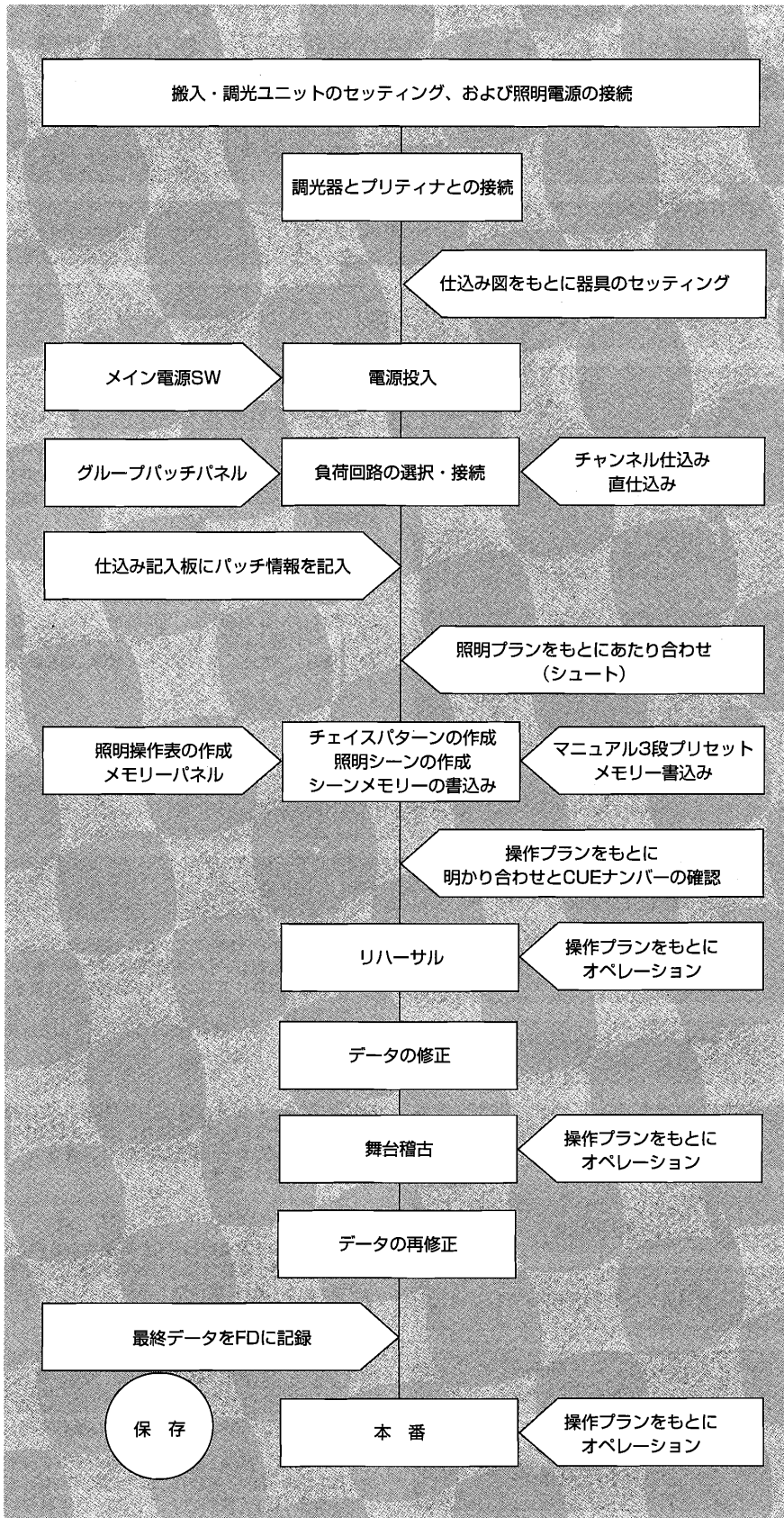
⑥ クロスフェーダを操作します。 明かりが消灯 (暗転) し、CF-B側の (OFF) PL が「緑」から「赤」に変わり、CF-A側のPL (3) が「赤」から「緑」に変わり、スタン・バイ状態になります。

# プリティナB型フローチャート

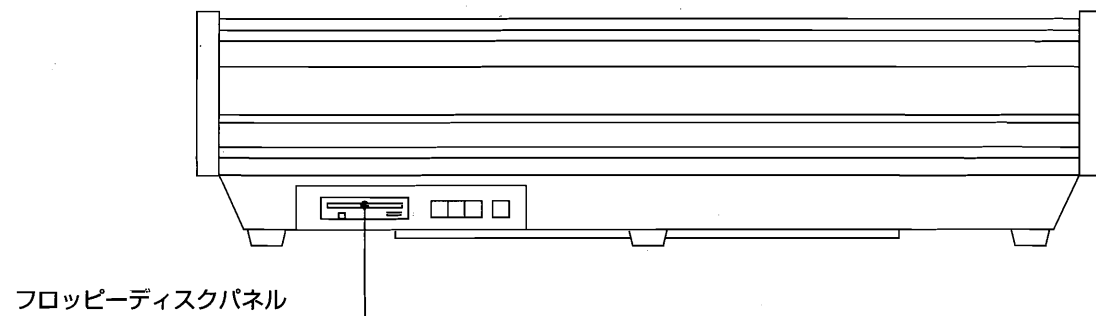
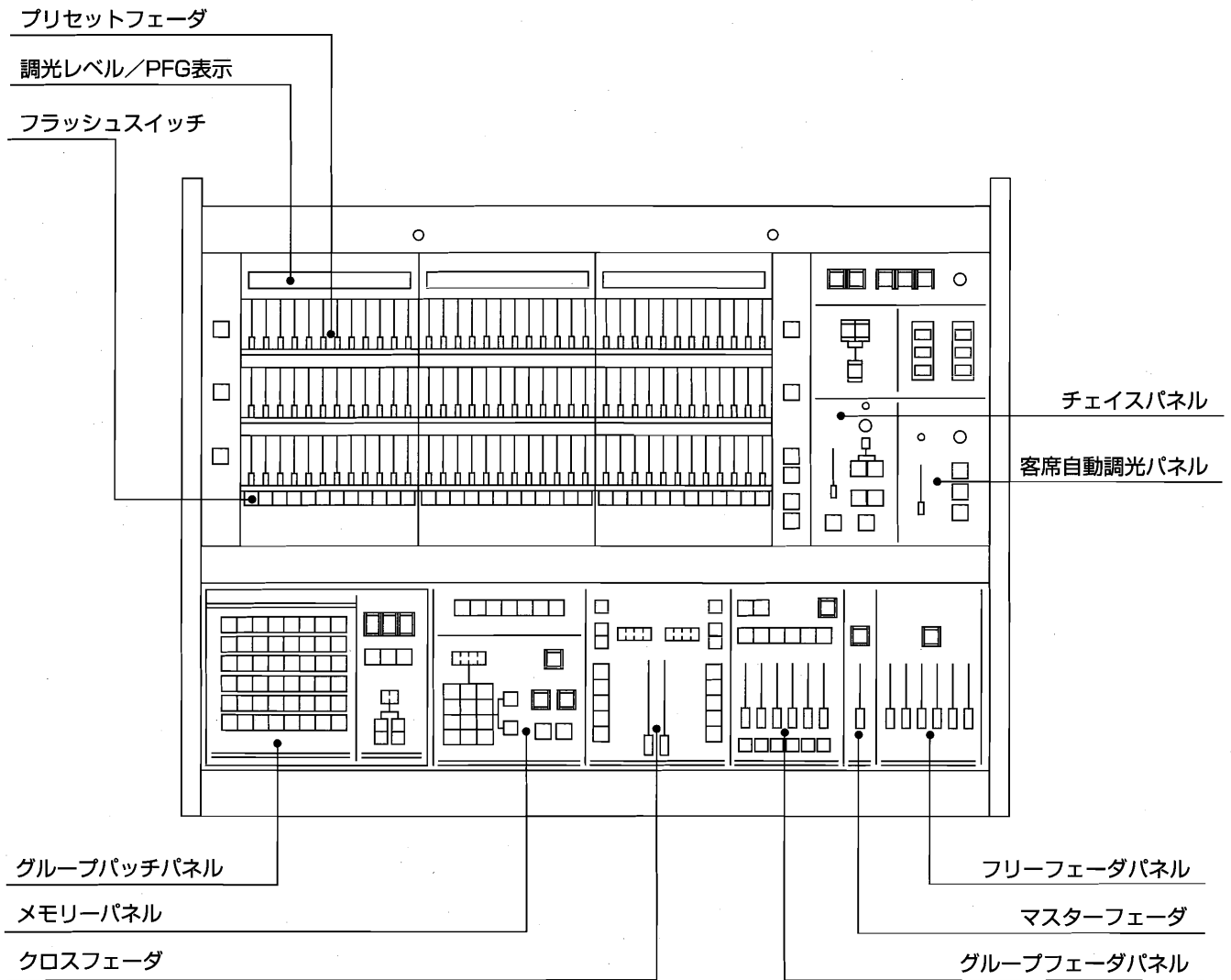
## プリティナ調光操作卓B型の概要

### ●プリティナB型

- ①グループパッチパネル  
負荷回路と調光卓のフェーダ回路との接続をおこないます。
- ②3段プリセットフェーダ  
従来のマニュアル3段プリセットフェーダとして使用できます。また、メモリーの書込みフェーダとしても使用します。
- ③メモリーパネル  
最大250シーンのレベルデータを記憶することができます。
- ④チェイスパネル  
チェイスメモリーのデータを順次点滅するチェイス効果を実行できます。
- ⑤フラッシュスイッチ  
フェーダごとにフラッシュ効果（タッチ）をおこないます。
- ⑥P・F・G機構  
ワンタッチでフェーダ群をG1～6のグループ、フリーのフェーダに接続します。
- ⑦客調光装置（オプション）  
客席の調光操作を手動/自動でおこないます。
- ⑧3.5インチフロッピーディスクドライブ（FDD）  
プリティナのパッチデータ、シーンデータ、PFGデータを3.5インチのフロッピーディスクに保存、または、保存データを読み込みます。（COMOS対応）



# プリティナB型の操作面



# パッチをする

パッチとは負荷回路(コンセント)を選択し、調光回路(フェーダ)に接続することをいいますが、プリティナで照明(明かり)を操作するためにはまずパッチ(選択接続)をおこないます。

## プリティナB型の パッチシステムについて

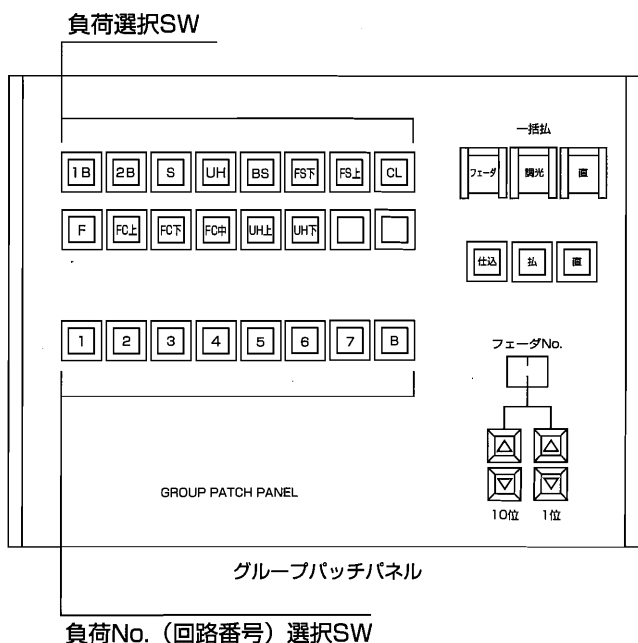
プリティナB型のパッチ(負荷回路選択機構)はピンボードやケーブルを使用しない、CPU(コンピュータ)内蔵の「グループ選択式」を採用しています。

ボタン操作で調光チャンネル仕込み、直点灯ができます。

### 1. 調光ユニットに接続した負荷のプリティナへの接続

**操作手順** 負荷回路と調光卓のフェーダとの割りつけ(調光仕込み)

- ① グループパッチパネルの「操作モードSW」の **仕込** SWを選択します。
  - ② **▲ ▼** SWを押し、割りつけるフェーダNo.を決定します。  
**▲** SWを押すごとに表示窓に表示されるフェーダNo.はプラス1され、**▼** SWを押すごとにマイナス1されます。(1位、10位も同様)
  - ③ 負荷選択SWで接続したい負荷名称の中から(グループ)を選択します。SWを押すと自照LEDが点灯します。
  - ④ **1**~**8**までの負荷No.(回路番号)選択SWを押します。SWを押すと自照LEDが点灯します。自照LEDの点灯は仕込み済み表示を兼ねています。
- \* 連続して仕込みをおこなう場合には、手順の②~④を繰り返しておこなってください。




## 2. プリティナに接続された負荷回路の切り離し

誤った負荷回路を接続した場合などに、負荷回路を指定して調光回路から切り離すことができます。



### 接続した負荷回路とフェーダとの切り離し（各個払い）



- ①グループパッチパネルの「操作モードSW」のを選択します。
- ②負荷選択SWで各個払いしたい負荷名称(グループ)を選択します。  
SWを押すと自照LEDが点灯します。この時、グループで既にフェーダに仕込まれている負荷回路No.が点灯します。
- ③負荷No.(回路番号)選択を押します。  
SWを押すと自照LEDが消灯します。

## 3. フェーダに仕込まれた負荷回路の一括解除(フェーダ払い)

なんらかの事情で操作上必要でなくなった負荷回路を、フェーダごと一括して接続を解除します。



### フェーダ払い

- ①SWを押して、払いをしたいフェーダNo.をセットします。  
負荷回路が接続されているフェーダを選択すると、フェーダ払いSWが「緑」に自照します。
- ②フェーダSWを押します。

## 4. 調光フェーダに接続された負荷回路の一括解除(一括払い)

公演の終了、または大幅なパッチの変更などですべての調光パッチを解除するときに使用します。



### 一括払い


- ①一括払のSWを押します。

## 5. 直点灯/解除

「直」とは調光フェーダを通さずに直指定することにより、指定した負荷回路の100%の出力を得ることができます。



### 直点灯の指定と解除

- ①SWを押します。
- ②負荷選択SWで直指定したい負荷名称(グループ)を選択します。  
SWを押すと自照LEDが点灯します。
- ③負荷No.(回路番号)選択SWを押します。  
SWを押すと自照LEDが点灯します。自照LEDの点灯は仕込み済み表示を兼ねています。
- ④再度、負荷No.SWを押すことにより、直指定が解除されます。

# 明かりをつくる

メモリー操作〈メモリーパネルを使う〉／チェイス

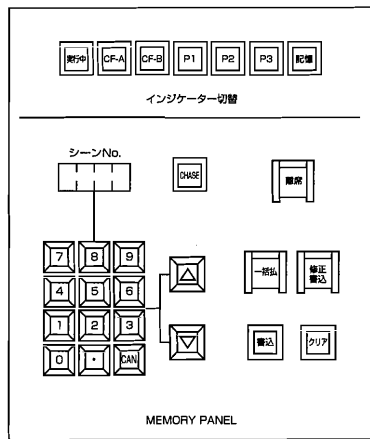
パッチデータができあがりしました。次に「明かり」を出してみましょう。

明かりのつくり方には、3段のプリセットフェーダを使用したマニュアル（手動）操作とメモリー機能を使用した操作があります。

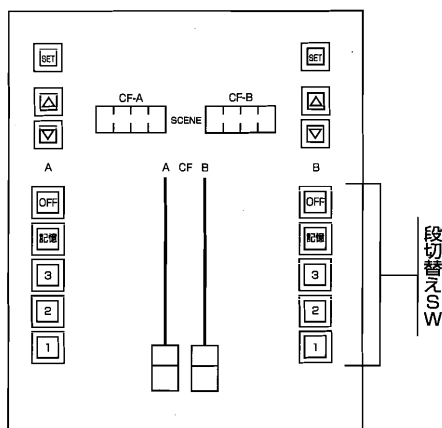
ここでは、メモリーパネルの操作手順を中心にメモリー操作を紹介します。



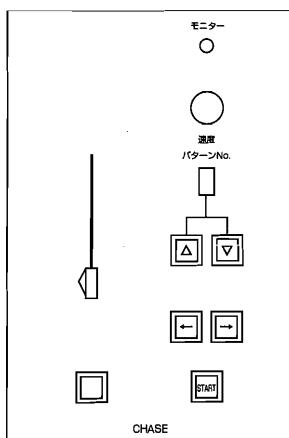
マスターフェーダ



メモリーパネル

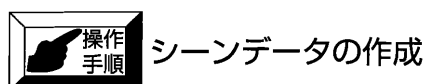


クロスフェーダパネル



チェイスパネル

## 1. 明かり(照明)をつくる



- ①マスターフェーダを100%にセットするか、またはマスターフェーダ上の**THR**（マスタースルー）SWをONにします。  
\*マスタースルーSWをONにすると、マスターフェーダを100%に上げた時と同じ状態になります。
- ②メモリーパネルのインジケータ切替えSWの**実行中**（実行中）を押します。
- ③CF（クロスフェーダ）の0%側の段切替えSWで、**1 2 3**のいずれかのSWを押し、プリセット段を選択します。  
\*選択した段をクロス転換で実行段に変えると、実行段のパイロット（以下、PL）が「赤」に点灯します。
- ④実行段でシーンデータを作成します。  
\*卓の正面のインジケータ表示窓に実明かりのデータがデジタルで表示されます。  
0%のときには—で、100%のときにはFLで表示されます。
- ⑤メモリーパネルの**テンキー**（数字キー）で、シーンNo.をセットします。  
\*セットできるシーンNo.は0～999.9までの0.1刻みで、最大250シーンをセットすることが可能です。
- ⑥メモリーパネルの**書込**（書込み）SWが「緑」に点灯していることを確認してからSWを押します。  
\*指定したシーンNo.が既に記憶されている場合には、この**書込**SWの隣の**クリア**（クリア）SWが点灯し、書込み操作はできなくなります。  
シーンNo.を未記憶のものに変更するか、シーンの消去をおこなってください。

## 2. シーンデータを消す(クリアー操作)

不用になったシーンデータを消去します。





### シーンデータの消去(クリア)操作

- ①メモリーパネルの**テンキー**(数字キー)で消去するシーンNo.をセットします。
- ②メモリーパネルの**クリア**(クリア)SWを押します。

## 3. シーンデータのコピー

記憶済みのシーンデータを他の異なるシーンに書き込みすることをシーンデータのコピーといいます。

<例> 101シーン(記憶済み)のデータを201シーン(未記憶)に書き込みます。



### シーンデータのコピー

- ①メモリーパネルのシーンNo.表示窓にシーンNo.が表示されているときは**CAN**キーを押し、シーンNo.表示をクリアします。
- ②メモリーパネルの**テンキー**(数字キー)を**101**の順に押します。
- ③メモリーパネルのインジケータ切替えSWの**記憶**SWを押します。  
\* 卓の正面のインジケータ表示窓に指定したシーン(この場合101シーン)のデータがデジタルで表示されます。
- ④メモリーパネルの**CAN**キーを押し、シーンNo.セット表示窓の表示をクリアします。
- ⑤メモリーパネルの**テンキー**(数字キー)を**201**の順に押します。
- ⑥メモリーパネルの**書込**SWが「緑」に点灯していることを確認してから**書込**SWを押します。  
\* 101シーンのデータが201シーンとして書き込まれます。

## 4. 記憶シーンデータの保存

せっかく記憶させたシーンデータを、誤操作で消去してしまうことがあります。そのようなことを無くすためにも、作成したシーンデータを3.5インチフロッピーディスクに保存することをお勧めします。

フロッピーディスクへのデータ保存方法、および操作手順はプリティナA型の場合と全く同じです。

7ページの「4.記憶シーンデータの保存」の操作手順にそってデータ保存をおこなってください。

## 5. チェイスの操作

チェイス機能はチェイスメモリーに書込まれた照明データを繰り返し再生する機能で、電飾効果による華やかなライティングを可能にします。

チェイスパターンは8パターン(1パターンあたり8ステップ)用意されています。



### チェイスの書込み

- ①「1. 明かり(照明)をつくる」のシーンデータ作成操作手順にそって①から④までの操作をおこないます。
- ②チェイスSWを押すと、シーン表示器に□が表示されます。
- ③メモリーパネルの**テンキー**(数字キー)でパターン、およびステップを設定します。  
\* 1パターンの1ステップの設定  
**テンキー**(数字キー)の1(パターン)を押し、続けて1(ステップ)を押します。シーンNo.表示器には「□1-1」と表示されます。



### チェイスの読出し

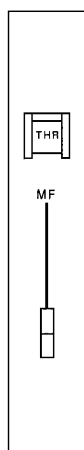
- ①チェイス操作パネルのパターン選択SWで、チェイスのパターンを選択します。  
△SWを押すごとにパターンNo.がプラス1され、▽SWを押すごとにパターンNo.がマイナス1されます。
- ②チェイス動作は**START**SWを押すとスタートし、動作表示LEDが点灯します。  
チェイス動作が実行されている時に、再び**START**SWを押すとチェイス動作はストップし、動作表示LEDが消灯します。
- ③チェイスの流れの方向は、流れ方向指定SW◀▶で指定します。
- ④チェイスの1ステップの動作時間は、パターンNo.表示器の上の動作時間調整VRで調整できます。
- ⑤チェイスフェーダはチェイスの明かりを明転、暗転させることができます。
- ⑥チェイスフラッシュSWは、チェイスフェーダに関係なく強制的に明転させることができます。

# 明かりの再生 〈読出し操作〉

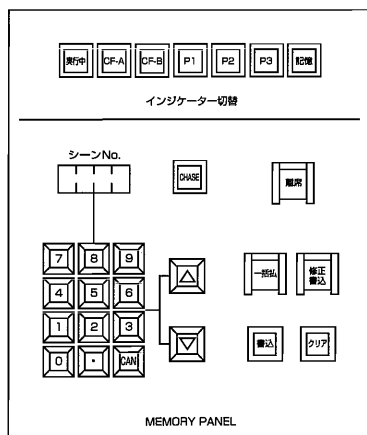
メモリー（記憶）シーンかできました。次は記憶したシーンデータを再生します。

再生方法には、「記憶のみの再生」と「マニュアルのみの再生」と「記憶とマニュアルを併用した再生」との3種類があります。

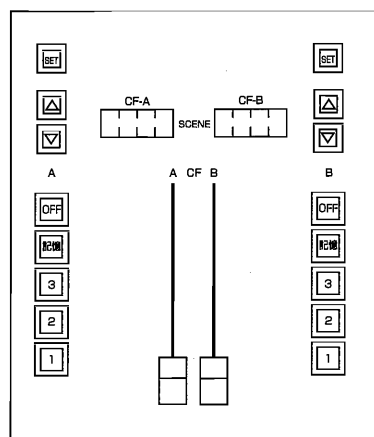
ここでは、「記憶のみの再生」と「記憶とマニュアルを併用した再生」を紹介します。



マスターフェーダ



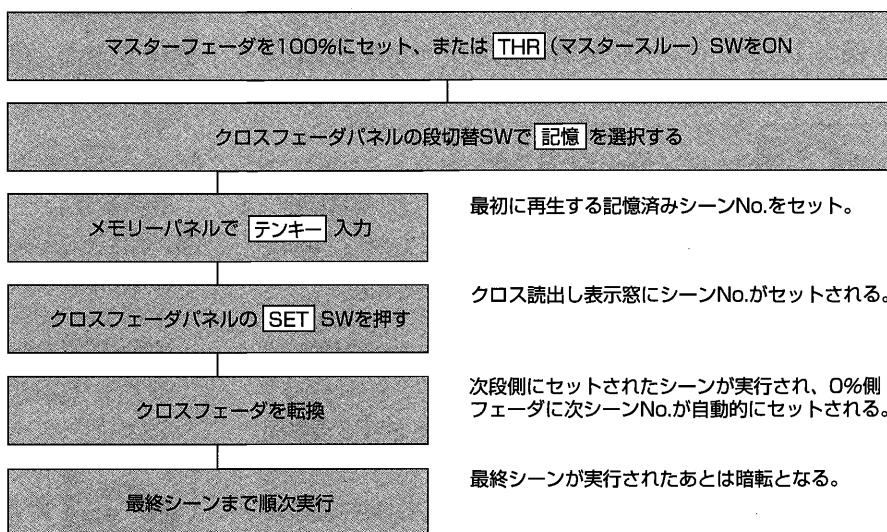
メモリーパネル



クロスフェーダパネル

## 1. メモリー（記憶）再生

記憶したシーンデータをクロスフェーダに読出して再生します。



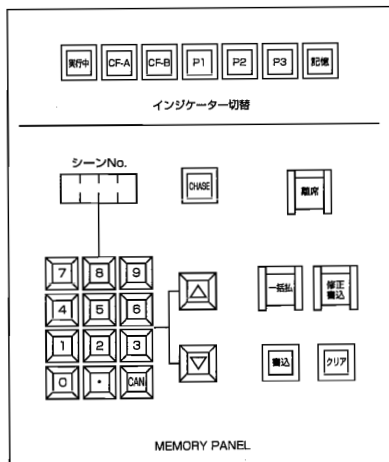
## 2. 記憶とマニュアルを併用した再生

ここでは、記憶済みシーンとマニュアル操作の併用再生の手順を紹介します。

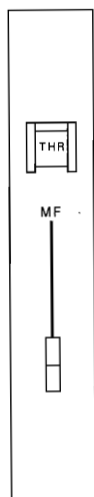
実際の操作例にそって操作方法を紹介していきます。

### ■操作例

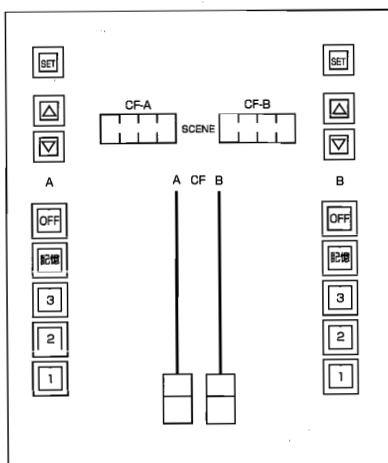
- ①まず、マニュアルの1段目をCF-Aで再生します。
- ②次に、マニュアルの2段目をCF-Bで再生します。
- ③記憶シーンの101シーンをCF-Aで再生します。
- ④記憶シーンの102シーンをCF-Bで再生します。
- ⑤マニュアルの3段目をCF-Aで再生します。
- ⑥照明シーンを暗転（暗闇）します。



メモリーパネル



マスターフェーダ



クロスフェーダパネル

次に操作例にそって操作方法を紹介していきます。



- プリセットフェーダ1~3段にそれぞれのレベルデータをセットします。
- メモリーパネルのシーンNo.セットをテンキーにより、**101**とセットします。
- マスターフェーダを100%にセット、または**THR**(マスタースルー) SWをON
- クロスフェーダのA側を0%側に倒し、段切替SW **1** を押します。  
CF-Bの段切替SWの**OFF** を押します。
- ① クロスフェーダを操作します。

クロスフェーダBの段切替SWを**2** に押し変えます。

1段目のシーンが点灯し、CF-A側のPL (1) が「緑」から「赤」に変わり、CF-B (OFF) 側のPL が「赤」から「緑」に変わり、スタン・バイ状態になります。
- ② クロスフェーダを操作します。

クロスフェーダAの段切替SWを**記憶** に押し変えます。

クロスフェーダA側の**SET** (記憶) SWを押します。

2段目のシーンが点灯し、CF-B側のPL (2) が「緑」から「赤」に変わり、CF-A (1) のPLが「赤」から「緑」に変わり、スタン・バイ状態になります。
- ③ クロスフェーダを操作します。

クロスフェーダBの段切替SWを**記憶** に押し変えます。

記憶の101シーンが点灯し、CF-A側のPLが「緑」から「赤」に変わり、CF-B側のPL (2) が「赤」から「緑」に変わり、スタン・バイ状態になります。

自動的にシーンNo.表示窓に102シーンがセットされます。
- ④ クロスフェーダを操作します。

クロスフェーダAの段切替SWを**3** に押し変えます。





記憶の102シーンが点灯し、CF-B側の(102) PLが「緑」から「赤」に変わり、CF-A側のPL (101) が「赤」から「緑」に変わり、スタン・バイ状態になります。
- ⑤ クロスフェーダを操作します。


クロスフェーダBの段切替SWを**OFF** に押し変えます。

プリセットの3が点灯し、CF-A側の(3) PLが「緑」から「赤」に変わり、CF-A側のPL (102) が「赤」から「緑」に変わり、スタン・バイ状態になります。
- ⑥ クロスフェーダを操作します。

マスターフェーダを0%に押し下げます。  
(マスタースルー-SWがONの状態では操作不可)

明かりが消灯(暗転)し、CF-B側の(OFF) PL が「緑」から「赤」に変わり、CF-A側のPL (3) が「赤」から「緑」に変わり、スタン・バイ状態になります。

	<b>警告</b>	警告：取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または負傷を負う可能性が想定される場合や、軽傷または物的損害の発生する頻度が高い場合に用いています。
		<ul style="list-style-type: none"> <li>●操作卓の通風口をふさぐものを周囲に設置したり、置かないでください。ふさがれていると装置内部温度が上昇し、火災・故障の原因となります。</li> <li>●操作卓から煙が出たり、異臭がするなどの異常状態のままで使用すると、火災・感電の原因となります。すぐに電源を切り、異常状態が収まったことを確認してから、原因を究明してください。容易に原因がわからない場合には当社に修理を依頼してください。</li> </ul>
		●操作卓の通電点検は、電気工事士などの有資格者が行ってください。感電のおそれがあります。
		●装置の分解、改造をしないでください。火災・感電・故障の原因となります。また、保証の対象外となります。

	<b>注意</b>	注意：取り扱いを誤った場合、使用者が軽傷を負う可能性が想定される場合や、物的損害のみの発生する頻度が高い場合に用いています。
---	-----------	--

<ul style="list-style-type: none"> <li>●この操作卓は屋内用の製品です。屋外で使用しないでください。屋外で使用すると、感電・火災の原因となることがあります。</li> <li>●操作卓を安全にご使用いただくため、取付・設置・使用前に必ず取扱説明書をよくお読みください。また、お読みいただいた後は大切に保管し、必要な時に活用してください。</li> <li>●操作卓の使用前の準備・取り扱い・点検（整備）は、「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が行ってください。未熟練者だけの対応は、間違いの原因になるおそれがあります。</li> <li>●操作卓は発熱します。必ず換気された場所に設置してください。火災・感電・故障の原因となることがあります。</li> <li>●直射日光・高温・多湿・塵埃・腐食性ガス・振動・衝撃等の環境は避けて設置してください。火災・感電・故障の原因となることがあります。</li> <li>●ケーブル類に張力がかかるような設置や使用はしないでください。感電・故障の原因となることがあります。</li> <li>●操作卓に強い衝撃を与えないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。</li> <li>●操作卓に濡れた手で触れないでください。感電のおそれがあります。</li> <li>●操作卓の接地端子に放電灯（クセノン・HMI等）の接地線を接続しないでください。操作卓の誤動作の原因となることがあります。</li> <li>●操作卓の近くで放電灯（クセノン・HMI等）のオン/オフ操作を行わないでください。操作卓の誤動作の原因となることがあります。</li> <li>●操作卓の上に灰皿・飲食物等を置かないでください。感電・故障の原因となることがあります。</li> <li>●操作卓の使用中は、扉を確実に閉じて使用してください。感電のおそれがあります。</li> <li>●ヒューズが溶断したときは、必ず原因を取り除いてから交換してください。火災・感電・故障のおそれがあります。</li> <li>●ヒューズが溶断したときは、必ず同一形式・容量のものとの交換してください。指定品以外を使用すると火災・故障の原因となることがあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ヒューズの交換は、電源を遮断（OFF）してからおこなってください。感電のおそれがあります。</li> <li>●交換部品は、当社指定の純正部品を使用し、取扱説明書に従って確実に処置をしてください。指定以外の取り扱いは火災や操作卓の故障・感電の原因となることがあります。</li> <li>●操作卓の日常点検を実施してください。点検の結果、取扱説明書に記載されている基準ははずれている場合は、取扱説明書に基づき処置をしてください。</li> <li>●操作卓の安全性と正常動作を維持するため、定期的に当社の点検・調整を受けてください。</li> <li>●通風口が埃などでふさがっていないか点検し、清掃してください。火災・故障の原因となることがあります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●操作卓の点検・清掃時は、必ず電源を切ってください。電源を切らないと感電するおそれがあります。</li> <li>●設置・取付・点検時には必ず端子カバー等は、必ず元の位置に取り付けてください。感電のおそれがあります。</li> <li>●導電部接続ネジは、定期的に増締めをしてください。ネジが緩んでいると火災・発熱の原因となることがあります。</li> <li>●地震などの天災の後は、再使用前に「舞台・テレビジョン照明技術者技能認定者」などの専門家が必ず点検を行ってください。未熟練者だけの対応は、火災・感電・故障の原因となることがあります。</li> <li>●補修用部品の最低保有期間は8年です。</li> </ul>
---	---	---

照明操作卓の日常点検項目・および処置						
点検項目	日常点検					メーカー修理依頼
	清掃	増締め	交換	再装着	再投入	
部屋（室内）は換気されているか					○	
通風口がものでふさがれていないか	○					
通風口に埃、ゴミなどが付着していないか	○					
装置の変形・損傷がないか						○
扉は閉じているか カバー類は正しく取り付けてあるか				○		
各種表示灯のランプ切れがないか			○			
部品の損傷がないか						○
操作ケーブルが無理に引張られていないか				○		
ケーブル類のコネクタが正しく装着されているか				○		
各種ヒューズが溶断していないか			○			
各種ヒューズが正しく装着されているか				○		
フェーダが正常に動作しているか						○
各種スイッチ、押ボタンスイッチが正常に動作しているか						○
端子ネジに緩みはないか		○				
端子部分に変色、変形がないか						○
ファンが正常に動作しているか						○
装置より異臭や異常音がないか						○
卓内部の直電流装置の動作LEDが異常に発光したり、消灯していないか						○

## 丸茂電機株式会社

本社・営業部 〒101-0041  
 大阪営業所 〒530-0057  
 名古屋営業所 〒460-0008  
 福岡営業所 〒810-0041  
 広島営業所 〒730-0022  
 札幌営業所 〒060-0061  
 仙台営業所 〒980-0802

東京都千代田区神田須田町1-24  
 大阪市北区曾根崎2-2-18(だいしん・住生梅田ビル)  
 名古屋市中区栄4-1-1(中日ビル)  
 福岡市中央区大名1-14-45(福岡鴻池ビル)  
 広島市中区鞆山町1-11(フジスカイビル)  
 札幌市中央区南一条西7-12(都市ビル)  
 仙台市青葉区二日町3-10(グラン・シャリオビル)

Tel.03-3252-0321  
 Tel.06-6312-1913  
 Tel.052-263-7425  
 Tel.092-741-4762  
 Tel.082-249-6400  
 Tel.011-261-0321  
 Tel.022-263-0221

Fax.03-5256-9361  
 Fax.06-6315-0604  
 Fax.052-241-0790  
 Fax.092-741-4764  
 Fax.082-249-6408  
 Fax.011-261-2728  
 Fax.022-263-0225